第2640地区

有田２０００ ロータリークラブ

18−19年度 RIテーマ
【インスピレーションになろう】

No. 893
Club Bulletin

会　　長　　南　良暢
幹　　事　　永石睦巳
クラブ会報委員長　吉水志朗

青少年奉仕月間

例会日／毎週水曜日　１９：００
事務局・例会場／〒643-0025
有田郡有田川町土生４０９
吉備インターゴルフセンター
ＴＥＬ０７３７−５２−８９６０
ＦＡＸ０７３７−２２−６８００
Ｅ−mail：　info@arida2000rotary.club
ＵＲＬ：　http://arida2000rotary.club/

四つのテスト 言行はこれに照らしてから
1．真実かどうか
2．みんなに公平か
3．好意と友情を深めるか
4．みんなのためになるかどうか

本日のプログラム
令和元年５月２２日　第８９４回
ソング「手に手つないで」
会長の時間　幹事報告　委員会報告
ニコニコ箱報告　　出席報告
次年度クラブ会長のための時間

次回のプログラム

５月２９日　あみ清数見商店　数見寿朗様
６月　５日　株式会社角長　加納恒儀様
６月１２日　定款による休会
６月１９日　各委員会活動報告

前回の報告（第８９３例会）

開催日　令和元年５月１５日（水）

点鐘　南　会　長

ソング　「君が代」　「奉仕の理想」

ゲスト

谷野一彦様

羽衣ロータリークラブ

現職：国際ロータリー第2640地区

2018-2019年度　米山記念奨学委員会　副委員長

略歴：2011-12年度・2012-13年度・2013-14年度地区米山記念奨学委員長

2013-2014年度　ガバナー補佐

●会長の時間●

皆さん，こんばんは。平成最後の例会を我々の20周年記念式典で終え，大型連休を挟んで，本日は令和最初の例会となります。皆様なりに平成を振り返り，これからの令和に向けてさらに邁進されることだと思います。
米山記念奨学委員会の谷野一彦様，本日は我々の令和最初の例会に遠方よりお越し下さり誠にありがとうございます。
　皆様方のおかげを持ちまして20周年式典を盛会で終えることができましたことを感謝いたします。もう一仕事，20周年記念誌の作成がありますので，どうかよろしくお願いいたします。できればご依頼させて頂いております個人プロフィールのご提出を5月末までに是非お願いした

いと思います。この記念誌の作成こそ，私が会長を務めさせていただく上で最もなし得たい事業の一つでもあります。

さて，令和ですね。令和という文字が踊っている書類や書簡を目にする機会が増えるたびに違和感を感じなくなって来ています。時代の流れというか，時間の波に乗ってきていると同時にそういう波は人々が作っているからこそ実感できるんだと思いながら，人々が毎日を自分の生業や周囲の人や自分のために活動しているんだと改めて感じています。まだ見ぬこれからの令和を皆様はどのように過ごしていくのでしょうか？波に身を任せながら漂流しますか？押し寄せる波に抗いながら新天地を目指しますか？
現在，私の病院では，開設当初からのチャーターメンバーならぬ，当初からの職員は5本の指で十分足りる構成となっていて，私が理事長として就いた時の今から12年前に思い浮かべた状況と現在では全く違う構成となっております。同じ組織であっても構成されるメンバーは時代とともに流動的であるということです。人は歳を重ね，そして生命を全うします。組織という枠組みの中を覗き込んで見ますと，流動的な新陳代謝が人であり，モノであり，制度であり，行われながらもモノや制度は塗り替えられて便利になり精度も向上しますが，人はそういうわけにはいきません。その時代に合ったモノや制度を基盤として人の価値観や考え方は流動的になるものでしょう。そのような人たちで上塗りされていく組織を自分の描いている新天地に導くことは容易いことではありません。時代の波に抗っていくのなら，自分自身がその波の特性を知り，柔軟な対応ができるスベを持ち合わせていかなければ組織は目的地に進んでいくとは思えません。つまり自分自身が研鑽し続けることです。今度は，組織という枠組みから外を眺めて見ますと，どうでしょうか？何が変わったのでしょうか？どんな効果が得られたのでしょうか？
令和において，私は自分の束ねる組織の中と外を見直す機会を頂きました。流動的なメンバーが私の描く本質的な理念のもとにサービス業を追い求める体制づくりに気付かされ，客観的に組織がどのように変わってきているのかさえも理解できていない状況を整備することに気付かされました。有田2000ロータリークラブという組織はどうでしょう？会長という名の下に単年制であり，メンバーはそれぞれの生業のトップで構成されているという特性を持ち合わせたロータリークラブですので，組織づくりはさらに容易ではないでしょう。時代の波に身を任せながら漂流するしかないようにも思えます。単年制度が邪魔しているのかどうか，クラブとしての恒久的な理念がないことに問題があるんではないかとも考えたりもします。いつかどこかの機会にクラブ協議会でもいいので，我々の目指すものは何なのか？恒久的な基本方針は何なのかを討議してみてもいいのではないかとこの令和最初の例会において思いにふけました。
会長の時間に難しいことは言わないでと釘を刺されておりましたが，学習能力がない稚拙な会長で恐縮しております。以上，会長の時間を終わります。ご静聴ありがとうございました。

●幹事報告●

幹事：永石睦巳君

報告事項

１．2019年11月10日 RID2640分区2組 IM開催　場所：御坊商工会議所　御坊RC

２．2019年6月9日(日) クラブ情報規定委員長会議の案内（回覧）

３．2019年度規定審議会提出立法案一覧表（回覧）

４．平成31年度「ダメ。ゼッタイ。」普及運動に対する後援とご協力について（依頼）（回覧）

５．第18回わんぱく相撲有田場所開催について 6月22日（土）広川町民体育館

６．ハイライトよねやま(回覧)

７．有田タイムス　有田特報社　記事(回覧)

８．有田RC　60周年御礼「中期Vision」策定（回覧）

●委員会報告●

職業奉仕委員会

樋口明君

四つのテスト唱和

●5月生れお誕生日●

樋口明君

おめでとうございます！

●次年度幹事報告事項●

前任君：次年度理事会は、5月22日例会終了後になります。宜しくお願いします。

有田南RCより、3クラブ合同ゴルフコンペは、9月１、6、13、20日の中で開催予定です。

●出席報告●

	会員数	出席者数	出　席　率
本日の出席	１７名	８名	４４．４４％
４月１７日	１７名	１５名	８８・２４％

樋口明君

●ニコニコ箱●

地区米山奨学副委員長　谷野一彦様：本日は、卓話の機会を頂き有難うございます。

南良暢君：米山奨学委員　谷野一彦副委員長

本日はわざわざ遠方よりお越し頂き有難うございます。

永石睦巳君：谷野様　本日は宜しくお願い致します。

中屋喜臣君：谷野一彦様　本日はお忙しい中有難うございます。　卓話よろしくお願いいたします。

辻本正成君：米山記念奨学会　谷野一彦様本日は宜しくお願い致します。

大浦輝彦君：みなさんこんばんは！　谷野様、ようこそお越し下さいました。本日の卓話よろしくお願い致します。

平松一彦君：米山記念奨学委員会　谷野副委員長様　本日は有難うございます。皆様20周年お疲れさまでした。

前任君：谷野様　本日は宜しくお願い致します。

●卓話●　タイトル　米山よもやま話

地区米山記念奨学委員会
副委員長　谷野一彦様

有田2000ロータリークラブの皆様、本日は卓話に招聘いただき、また、平素は米山奨学事業に、多大なるご理解ご支援を賜り、誠にありがとうございます。

皆様は、米山奨学事業の正式名称をご存知でしょうか？

名称は、**「公益財団法人ロータリー米山記念奨学会」**です。

この公益財団法人は、財団法改正に伴い、2012年1月4日、より公益性の高い事業として認められ、「公益財団法人ロータリー米山記念奨学会」として移行登記が完了しました。また、国より「特定公益増進法人」に認定されているため、当会への寄付は、税制上の優遇措置を受けることが出来ます。事業内容は変わりませんが、理事の管理責任が重くなることと、とくに、選考に関することに重点がおかれ、より一層の透明性と公平性がもとめられることとなりました。また、2007年、RIより、日本全地区合同奉仕活動としての手続が完了しており、ロータリーマークの使用が認められております。この事業の始まりは、日本のロータリークラブの設立に多大な貢献をした米山梅吉翁の功績を記念し、1952年に東京ロータリー･クラブで始められました。この事業は、瞬く間に日本の全クラブの賛同を呼び、今日の発展に至っております。

米山奨学事業は、勉学、研究を志して日本に在留している外国人留学生に対し、日本全国のロータリアンの寄付金を財源として、奨学金を支給し支援する民間最大の奨学団体です。米山奨学金には、奨学金による経済的な支援だけでなく、ロータリー独自の世話クラブとカウンセラー制度による心の通った支援があります。奨学金を支給するだけの団体も多いなか、米山奨学生は例会や奉仕活動、数多くのロータリアンとの交流を通じて、真の日本を知り、ロータリーが求める平和の心を学んでいます。ロータリアンにとっても、奨学事業の意義を実感し、視野を広める機会となっております。

さて、未だ国家間には様々な問題がございますが、経済・文化を含めグローバル化が進む現代社会において、人的交流は不可欠であります。留学生の多くは、母国に戻り教育職に就く方が最も多く、日本の心を理解した指導者として、日本と母国との理解促進に大いに役立つことでしょう。また、「平和日本」を象徴するかのように全国に多くのインバウンドも訪れてきており、こうした人的交流がより一層の発展を遂げるには、日本を留学の地として選んでくれた学生に心の通った支援をすることではないでしょうか。二度と戦争の悲劇を繰り返さないために世界平和を願って設立された米山事業の使命、理念を鑑み、将来、日本と世界とを結ぶ「懸け橋」となって国際社会で活躍し、ロータリーのよき理解者となる人材を育成していくことが、ロータリーが目指す「平和と国際理解への推進」そのものであることをご理解いただきたいと存じます。

ロータリアン一人一人が支える米山奨学事業、今後ともご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

●閉会点鐘●　南会長